

ヒトパピローマウイルス感染症予防接種の説明書

ヒトパピローマウイルス感染症とは	ヒトパピローマウイルス (HPV) に感染しても、多くの場合はウイルスが消失しますが、一部の人で前がん病変を経て、浸潤がんに至ることがあります。子宮頸がんの 50～70%は、HPV16、18 型が原因とされています。子宮頸がん罹患者は 20 代から増加し、40 代でピークを迎え、年間約 11,000 人が発症し、年間約 2,900 人が死亡する重大な疾患です。ワクチンで HPV 感染を防ぐとともに、前がん病変を予防する効果が期待されています。		
ワクチンの種類	サーバリックス (2 価 HPV ワクチン)	ガーダシル (4 価 HPV ワクチン)	シルガード 9 (9 価 HPV ワクチン)
ワクチンの効果	HPV16 型と 18 型の感染や前がん病変の発症を予防します。	HPV 6 型、11 型、16 型、18 型の 4 つの型のウイルス感染を防ぐことができ、子宮頸がんとその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、尖圭コンジローマなどの発症を予防します。	HPV 6 型、11 型、16 型、18 型、31 型、33 型、45 型、52 型 58 型の 9 つの型のウイルス感染を防ぐことができ、子宮頸がんとその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、尖圭コンジローマなどの発症を予防します。
標準的な接種回数・間隔	○ 1 回目から 1 か月以上の間隔をあけて 2 回目を接種 ○ 1 回目から 6 か月以上の間隔をあけて 3 回目を接種	○ 1 回目から 2 か月以上の間隔をあけて 2 回目を接種 ○ 1 回目から 6 か月以上の間隔をあけて 3 回目を接種	【2 回接種の場合】(1 回目が 15 歳未満に限る) ○ 6 か月以上の間隔をあけて 2 回接種 【3 回接種の場合】 ○ 1 回目から 1 か月以上の間隔をあけて 2 回目を接種 ○ 1 回目から 6 か月以上の間隔をあけて 3 回目を接種
<p>これまでにサーバリックスまたはガーダシル (2 価または 4 価の HPV ワクチン) を 1 回または 2 回接種した方へ</p> <p>原則として同じ種類のワクチンを接種することをお勧めしますが、医師と相談のうえ、途中からシルガード 9 (9 価ワクチン) に変更し、残りの接種を完了することも可能です。</p> <p>※サーバリックスまたはガーダシル (2 価または 4 価の HPV ワクチン) を接種した後にシルガード 9 (9 価ワクチン) を接種することに対する効果やリスクについての科学的見解は限定されています。</p>			
ワクチンの副反応	<p>○ 頻度 50% 以上：注射部分の痛み・赤み・腫れ、疲労</p> <p>○ 頻度 10% 以上：かゆみ、腹痛、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛等</p> <p>○ 頻度 1～10% 未満：じんましん、めまい、発熱等</p> <p>○ 頻度 1% 未満：注射部位の感覚異常、全身の脱力</p> <p>○ 頻度不明：手足の痛み、失神、リンパ節症等</p>	<p>○ 頻度 50% 以上：注射部分の痛み</p> <p>○ 頻度 10% 以上：注射部位の赤み・腫れ</p> <p>○ 頻度 1～10% 未満：頭痛、注射部位のかゆみ、発熱</p> <p>○ 頻度 1% 未満：下痢、腹痛、手足の痛み、筋肉が硬くなる、注射部位のしこり・出血、不快感、倦怠感等</p> <p>○ 頻度不明：失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労感等</p>	<p>○ 頻度 50% 以上：注射部分の痛み</p> <p>○ 頻度 10% 以上：注射部位の赤み・腫れ、頭痛</p> <p>○ 頻度 1～10% 未満：めまい、悪心、下痢、注射部位のかゆみ、発熱、疲労、注射部位の内出血等</p> <p>○ 頻度 1% 未満：嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、注射部位の出血・血種・しこり、倦怠感等</p> <p>○ 頻度不明：感覚鈍麻、失神、手足の痛み等</p>

	<p>※頻度は低いですが、重い副反応としてアナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎、ギラン・バレー症候群が報告されます。</p> <p>予防接種を受けたあと、副反応が起こった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。</p>
定期接種対象者	小学校6年生から高校1年生相当の女子
キャッチアップ対象者	平成9年4月2日～平成19年4月1日生まれの女子（令和7年3月31日までに限る）
受けることができない人	<ul style="list-style-type: none"> ○明らかに発熱のある人（37.5℃以上の場合） ○重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人 ○その日受ける予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人 ○妊娠中もしくは妊娠している可能性のある人 ○医師が不相当と判断した人
予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人	<ul style="list-style-type: none"> ○血小板が少ない人や出血しやすい人 ○心臓病、肝臓病、腎臓病、血液の病気などの治療を受けている人 ○以前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人 ○今までにけいれんを起こしたことがある人 ○過去に免疫不全の診断がなされた人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人 ○予防接種に含まれる成分にアレルギーがある人 ○発育で経過観察といわれている人
ワクチン接種後の注意	<ul style="list-style-type: none"> ○接種後に、めまいやふらつき、失神、重いアレルギー症状が起こることがあるため、接種後はすぐに帰宅せず、30分間程度は座って様子を見てください。 ○接種後は、接種部位を軽く抑える程度にし、揉まないようにして清潔を保ちましょう。 ○当日は過度な運動を控えましょう。 ○接種当日の入浴は問題ありませんが、注射部位を強くこすことは避けてください。 ○接種部位以外にも激しい疼痛、しびれ、脱力感等があらわれ、長時間症状が持続する例があります。異常が認められた場合には、医療機関を受診しましょう。 ○このワクチンとほかのワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。

奥州市

《厚生労働省ホームページ》

